

荒川を考える葛飾区民会議

●開催日

平成 24 年 2 月 22 日（水）
午後 2 時 00 分から午後 3 時 45 分

●開催場所

ウィメンズパル 男女平等推進センター
視聴覚室

●出席者

17 名（全構成員：22 名）

●主な議題

- ・第 3 回議事概要について
- ・地区別計画について
- ・情報提供



承認

第 3 回葛飾区民会議の議事概要（案）が承認されました。

討議

1) 地区別計画について

荒川将来像計画 2010 地区別計画【たたき台】について、討議が行われました。

<主な質問・意見等>（○：質問・意見、●：質問に対する回答）

○資料 2 表紙の日付「平成 23 年 2 月 21 日」は「平成 24 年 2 月 22 日」の誤りで、訂正いただきたい。資料 3 は前回会議で検討し、修正した箇所をまとめたものである。

○P. 24 の 10 行目、「市街地側には小菅東スポーツ公園や小菅西公園が整備されており」とあるが、我々の考えでは小菅西公園は市街地ではない。綾瀬川と荒川の間、下水処理場の上であり、きれいだがアクセスがよくないため行きにくい。

- アクセス改善を入れたほうが良いという意味の意見か。
- 文言として市街地とは言わない。
- 資料 4「区民と行う維持管理」は我々ができるであろう項目だが、地区によりできないものもあるため、ここを整理しないと前に進めない気がする。例えば、外来種対策は、どこまでが外来種か知識が必要で、すぐにはできない。34ページの表 4 では生物調査や情報収集に区は関わらないようになっているが、環境課には、モニター制度があり、荒川に重点を置いて募集し、整備すれば、ある程度はそれでできるのではないか。クリーンエイドについては、ごみの処理はある程度やっていたので、もう少しプラスすればよいと思う。河川敷の池・ワンド・ビオトープの維持管理については、葛飾の荒川には、池はないし、ワンドは川の一部、ビオトープも無いと思う。直接河川に関わることなのでどこまでできるか検討が必要である。水防団は地元の自治会にあるので、組織をきちんとすればいい。イベントも少しやっているの、どう表現するかだけである。外来種対策以外は少なからずやっているの、どう整理するか。ただし地域によりできる所とできない所があるので、どういう組織で日程を決めていくか、この会議で7月にそこまでやらなくては行けないのではないか。
- 既存でもいろいろな事業があるので、事務局でまとめて足りない所を整理していく。特に市民が関わっている現状の取り組みと今後の展開を作成し、次回市民会議の資料とする。本編に載せる必要はないと思うが、実際にこれを使ってどう進めていくか整理する。
- 表 4 には、現在荒川以外の河川も含め、葛飾区と区民が関わりながら行っているものをすべて載せている。
- 生き物の情報収集とは書かれていても、実際にどんな事業なのかは表 4 ではわからないので、現状を出し今後必要なものが見えるような資料作りをしたい。
- 区は細かくやっている。水門調査はローカルでやっており、委託すればできないこともない。例えば、葛飾の川をきれいにする会は河川を全部測っており、そのデータをどう生かすか。国だけに任せず、ローカル情報としては載せる方法もあるのではないか。
- 区だけでも把握していないようなところは相談しながら、整理していく。
- せっかくいろいろな取り組みがあるのに、ここにきて話すだけで終わるのはもったいない。
- ゴミ投棄の監視等、どこまで注意していいのか、争い事にもなるので難しい問題がある。
- 資料 4 の赤の部分は事務局からの提案である。元の文は「区民が行う維持管理」だが、国や区が区民とどのように関わっていくかという観点にした。「クリーン活動の実施や」を「クリーン活動の実施や参加」に、「監視」はきつい言葉なので「通報」に、「調査・巡視・定期点検」は河川部分は国交省が、占用地は区がやっていくので、区民は「情報提供」を行うことで川の管理に参加してほしい。「役割分担」は「関わり」に修正した。表の中の管理の「主体」は削除し、維持管理していくための「手法」として、○がついている部分は自ら何かやるイメージではなく、区民にいかに携わっていただけるかを表している。
- 川の通信簿は国交省事業の実施と書かれているが、難しい。評価する人の立場や思想により変わっていく。
- どんなイメージのものか。
- 何年かに一度、河川の状況について住民からアンケートを募り、ホームページ上で公表している。取りまとめと公表が国で、参加していただいているということで市区民に○をつけている。
- 郷土と天文の博物館でアンケートをとっている。我々が書かなければ意見をとれない。10点法等の厳しいものではないだろう。
- みなさんに採点していただくものではない。
- クリーンエイドは市民会議がなくなると、今後どこが主体になるのか。
- 市民会議の今後について移行をするかどうかの話は、代表者会議で各市民会議から意見を持ち寄り検討している。市民委員の意見として、具体的にどういう形で移行していくのかイメージがつかないので、図や表で示してほしいという宿題が出ているが、12月頭の代表者会議でまだ示せていない状態である。それが決まるまでは移行はできないため、市民会

議はこれまで通り継続してほしい。

- 河川整備計画の関係で会議体を別の方向にすることだが、基本は自治体毎に何らかの形で会議体を残す方向か。
- 河川整備計画は河川管理者が作るものだが、市区が入らない形になるのは問題がある。市民会議は元々、市民と行政と学識とが一緒に考えていくのがいい点なので、今のままの会議体で進めていけるような方策を提案してほしいというのが大きな意見である。
- 名前は変わるかもしれないが、同じような会議体にしたいという意向ということか。
- 私が代表者会議に出ているが、横につながった自然保護に熱心な人が多いので、偏った方向、整備とは違った方向に流れるのではないかと懸念がある。いろいろなジャンルの人が集まれば、市民の声になるかもしれない。市民と対話するのはいいが、一部熱心な人が集中すると何も決まらなくなる。次のステップの集め方は難しいかもしれないが、いろいろな地域の総論、区民の代表という形で地域住民の意見を聞いてほしい。
- みんな勉強熱心で知識もあるのは認めるが、同じような人が集まると怖い。いろいろな世界があるのでいろいろな人たちが検討していくのが一番いい。
- 自治体と仲良くやっている所はいいが、うまくいっていない所はおかしい方向に行くので、その辺は危惧している。
- 区民会議を立ち上げた時はスポーツ団体からも来ていただいたので、今でも占用している人にまた入っていただき、幅を広げた方がいいのかもしれない。また先ほど議長から指摘のあった小菅公園はP.28の3行目にも記述があり、「アクセス性を高め」等の表現を入れて修正しようと思うがどうか。
- 東公園から西公園は綾瀬川を渡って吊り橋がいいのではないかと昔から提案している。地元町会が動いてくれないため、この話は立ち消えになっている。
- 公園と土手の間は区道か。
- 区道である。
- 実施設計段階だが、小菅西公園の今利用していないフェンスで囲われた部分を拡張する計画をしている。コンセプトはスポーツで、敷地内に駐車場を借りる予定である。綾瀬川に4台分の駐車場があるのみなので、台数を増やす。
- 桜シーズン以外の利用者は少ない。
- 小菅東公園は若い人からお年寄りまで利用しているが、西公園は保育園や幼稚園がバスで来て利用している。
- 桜がきれいで、遠足でかなり来ている。
- スカイツリー観覧スポットとしてはいい。
- 以前は富士見百景に入っていたが、対岸にビルが建ち富士山が見えなくなったので、代わりにスカイツリーのビューポイントになっている。
- 資料4、表4に植物管理とあるが、議長も少しやっている。四ツ木にはない。水辺公園も一般の人は管理していない。
- 今はできていないが、一緒にやれるような仕組みができればありがたい。前回、水辺公園でモデル的な取り組みを進められないか提案した。
- 環境課が水辺公園で自然教室をやっている。
- 問題点の抽出だけはしておかないといけない。
- 環境課の職員でも外来種は正確には見分けられない。環境団体等からアドバイスをいただきながら連携してやっていくのがいい。
- 教育の場があれば市民でも覚えられると思うが。
- 環境課で生物多様性地域戦略を作っており、来年度、区内で活動している環境保全団体を集めて横断組織を作り、情報提供をして外来種の問題等で連携したり、イベント的な仕組みを作って区民に参加してもらえるとよい。今後協議会を作り、講師を招いて勉強会等作ればいいと考えている
- 放射能の問題はないか。
- 芝焼きの関連で荒川河川敷を測定したが、燃やした時の煙等含めて問題ない値だった。た

だ、荒川と江戸川とは違う。足立区の団体から話があり、夜間芝焼きは中止になった。地域で測定器の貸出も始めているので、細かい測定ができるようになってきている。

- 中土手を散策すると、木根川から下流は整備されているが、上流は放置され荒れている。行政ではどういう対策をとっているか。
- 今草木が生えっぱなしになっている所は占用されていない。今の時点でここをどうするかという方針は出ていない。同様の話は他の区でも出ており、自然地にどういう手の入れ方をしていったらいいか、自然地管理検討会で検討中である。今年度末を目標にどう管理していくか策定する。
- あの場所は国だから国で検討している。区で占用しているわけではない。
- 出歩くのは区民だから、区民の意向も取り上げてもらえれば。
- 造ってくれと言ったら管理もしなくてはならない。
- 木下川橋の下にホームレスがいるが、移動してもらえばよいのではないかと。10年前はなかった。
- 社会問題だから難しい。墨田の自然地はどのようなものか。
- 新荒川橋の下流の所に荒下がワンドを作る基盤整備をしており、墨田区が公園を整備する。移動に応じないホームレスには交渉中である。
- 移動させると葛飾に移ってくる。
- 高齢の人もおり、施設に入ってもらおうよう説得中である。
- P. 22 にホームレス対策や維持管理の仕組みを作ったり、大規模自然地に人が入れる工夫を検討すること追加した。
- 「住民ボランティア団体の方々の協力を求めます」と書くのは簡単だが、どこに、誰が頼むのか。1年2年のスパンで考えていかないと。
- 地元の町会が声をかければ、ボランティアは出てくる。
- 自治会も高齢者ばかりだ。
- 人材の不足が町会の現状である。クリーンエイドに中学校が保護者も含めて全校で参加すると聞いており、現状を見て関心を持ってもらう方法は提案できるのではないかと。若い人は仕事を持っているので、土日の昼はやってもらえない。
- 団塊の世代が65歳に近づいてきており、やる気のある人が多い。
- 女性はやる気があるが、男性はやる気がない人が多い。
- その世代は会社でも社会貢献したい人が多かったので、うまくつかまえばよい。
- 町会に入っている数は少ない。
- プライドの高い内容にすればよい。公園の掃除や自転車の整理等はいやがる。
- 公園清掃していても1人だけで、協力しようという人はいない。
- 数年前ヒヌマイトトンボの問題があったが、今どうなっているのか。木根川橋の下に駐車場があったが、ヒヌマイトトンボのために現在の場所に移動した。実際にはヒヌマイトトンボを見たことはない。ホームレスが住みやすくしたようなものという感じを受ける。放置されているようになってきているので、何とかしてもらえばありがたい。ゴミを橋から捨てるのは一部で荒川の上げ潮、引き潮で溜まる。
- ヒヌマイトトンボの計測はやっていると聞いている。いるにはいるが、あまりいない。止めるかどうか判断がつきにくく、学識の先生と相談している。決まったらお知らせするし、担当部署にも確認していく。
- 生息すれば楽しみだが、ホームレスが住みやすくしたようなもので残念である。八広駅の墨田区側に看板を立てている以上、国にも地域にも責任がある。真剣に取り組んでほしい。
- ゴミについては、川の干満の差がある。あそこがゴミの溜まる境目らしいが。
- 荒川下流管内は全部干潮区間である。上流でも潮が引くとゴミが出てくる。手入れされていない草が生えている所やワンドはゴミや泥が溜まりやすい。
- 何か所くらいあるか。
- 全体的にそういう傾向がある。
- 絶滅危惧種は簡単に止める等国交省ができるのか。環境省か。

- 事務局判断ではできない。
- 簡単に切るわけにはいかない。

情報提供

事務局より以下の情報提供がありました。

■荒川下流河川事務所より

1) 地区別計画

- まとまった段階で各市区で事務手続きをとって、策定する。その場は荒川の将来を考える協議会で、次回は3月8日14時より江東区総合区民センターのレク・ホールで開催する。足立区が策定する予定なので、内容等参考になると思う。
- 江戸川区もできたと聞いたが。
- 中身はできており、事務手続きの途中のためタイミング的に間に合わなかった。
- できているのは何市区か。
- 4市区くらいは固まりつつある。
- 3月8日に策定するのは足立区のみか。
- 足立区ともう一つあるかないか。後は事務手続き中で、議論はしていない。
- 資料3,4の修正内容と小菅西公園のアクセス改善について反映させて、次回会議で成案として提示する。実績については別途資料を作成し、具体的にどうやっていくか議論していく。

■葛飾区より

1) 春のクリーンエイド

- 葛飾学校教育の日である4月21日に中川中学校に参加いただき、実施する。主催はクリーンエイドの委員。広報、かつしかFM、ホームページ等で詳細を案内する予定である。
- 事務局から別途みなさんにお知らせはしないのか。
- 主催がクリーンエイドフォーラムなのでホームページ等で広報する。広報4月5日号に載せる予定である。

■その他

- 2月11日の芝焼きは中止されたのか。
- 放射能の問題が出てきたので中止された。
- 一部焼いたのがきっかけで、クレームが入り中止になった。
- 夜間も昼間も中止になった。
- 堤防の管理上、本来は焼かないとうまくない。
- 地区別計画は最終的にはもう少しつけ加えた形で仕上げるのか。
- 資料3,4の赤字と議長から意見の出た所を加えて事務局案として次回に出す。
- 自らできるまちづくり支援の仕組みは、書かれていることにプラスして具体的にしないと。よそとのバランスの問題。
- 3月に出る足立区版を参考にできる。
- 難しい問題がある。やる気のある人ならいいが。
- 指摘されているのはP.4に書かれているが、他の自治体も同じ。
- 最終的にどこまでやるのか具体的に決めないと、これで終わってしまうのではないかと。我々ができることとできないことまで出すのか。
- P.4の「災害に強い安全・安心のまちを支える川づくり」は大変なことである。
- 「放水路から川らしい水辺へ」に対しては反対である。あれは災害を守るための放水路であることが常に頭にないといけない。

- 「推進計画では、上記の基本理念をもとに以下の4つの取組みを推進していきます」ということで、例えば「災害に強い安全・安心を守る川づくり」では「水害から地域住民の生命と財産を守る治水事業の推進」や「地震時に対応した河川敷、河川を円滑に活用できる取組みの推進」等国や自治体や地域のみなさんと一緒に推進していくことが書き込んである。具体的には、荒下が中心になって、沿川自治体、東京都、埼玉県等が会議体を作り検討しており、徐々に進んでいる。
- これは早急な話である。川に避難するとかいう問題ではない。
- 建物の不燃化率を高めるのがまちづくりの手法で、川づくりにはなかなか目が向いていない。ただ、第2次避難所として河川敷は、例えば火事では行かなくてはならないが、地震の場合は津波等の様子を見ながらでないと避難できない。
- あそこに信号機をつけてほしい。地震で入場禁止の時は赤、逃げる時は青というように。
- 荒下に質問だが、今後民間の屋形船やマイボートを使う場合、緊急用船着場は使える状態にあるのか。もしもの時に水深がないとボートも泊まれない。例えばあらかわ号は常時あそこに入れるのか。それだけの深さが確保されているか。
- あらかわ号は喫水があまりなくてもどこでも行ける。堀切リバーステーションは維持浚渫している。荒下でも2,3台の船しか持っていないため、実際の災害時には船をあるだけかき集めて何とかすると思うが、普段から使っていないとわからないことが出てくる。船着場を民間に開放できる方策を、協議会を作り話し合っている。目指すのは自由使用。今後ホームページで議事録を出し、市民会議でも情報提供していく。
- 堀切リバーステーションは条例で有料で貸し出ししている。花火、釣り、屋形船等に対応している。1tあたりいくらなので、1台何円である。
- 知っている人は少ない。
- 区のホームページに載っているが、見ないとわからない。花火、釣りの人は毎年使っている。
- よく水上スキーの大会をやっている。
- まったく解放していない区もある。堀切リバーステーションを出てそこに戻って来ることしかできず、舟運という観点では1ヶ所だけでは問題がある。区や学識者も入れて、どういうネットワークを作っているかを主に議論している。
- 荒川だけでなく中川にも泊められそうな所はあるが、安心して止められる場所はない。もしもの時を考えると真剣に考えないと。
- 手漕ぎボートは波で怖い。どう折り合いをつけていくかが議論の内容である。
- カスリン台風時、四つ木の橋の下に米軍が災害の救助センターを作った。葛飾区の救護センターを念頭に入れてほしい。
- 災害時に河川敷に人が逃げてくるが、復旧のために消防、警察、荒下等が入った時のルール作りの検討会を今日行っており、記者発表していると思う。ホームページでも随時情報提供していきたい。
- あそこに本部の看板を掲げておけばいい。水元には東京都が地図や本部や救急班の位置を書いている。そこだけ整備してもらえれば。人間は逃げると動かない。
- 避難した時の女子トイレの問題がある。堀切菖蒲水門の下、左右に空きスペースがあるので、トイレやテントを置いていざという時に備えてほしい。
- 6つの川のある区は葛飾区だけだと思う。大地震で橋が落ちたら孤立する。
- 火事が延焼しないという説もある。
- 舟運や災害の件は、次回荒下より簡単な紹介をしてほしい。
- 特に舟運の件は、第3回協議会で今年のまとめと今後の方針が出るので、情報提供したい。

次回の会議（第8期第5回）は平成24年
5月23日(水)14:00より開催予定です。

連絡先：
荒川を考える葛飾区民会議事務局
TEL：03-5654-8372

